

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	秋田大学	拠点番号	A04
申請分野	生命科学		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	細胞の運命決定制御 Control of the cell fate		
研究分野及びキーワード	<研究分野：生物科学> (ホルモンと生理活性物質)(細胞情報伝達機構)(生体膜・受容体・チャネル)(細胞分化)(形態形成)		
専攻等名	大学院医学研究科・構造機能系専攻・内科系専攻・病理病態系専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 稲垣 暢也 教授 他 5名		

拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書(平成16年1月現在)を抜粋

<本拠点がカバーする学問分野について>

本研究拠点は細胞の増殖・アポトーシス・分化誘導・機能発現などの運命決定制御機構を、特に細胞外からのシグナル変換機構や細胞内でのシグナル伝達機構に焦点を当てながら説明することを目的としている。これらの研究は、分子生物学、生化学、生理学、発生学、発生工学、免疫・アレルギー学、代謝学等の幅広い学問分野をカバーする。

<本拠点の特色及びその目的等>

本拠点は、地方大学にありながらも、世界に向けて情報を発信しているような若手を中心として、学術的水準が高い研究教育拠点の形成を目指す点に特色がある。そのためにも、それぞれの研究分野において秀でた一流の研究者が、互いに情報を交換しながら、共同研究することによって最強のチームを形成することが必要である。

<COEを目指すユニーク性>

本拠点では一流の若手研究者を学外から主任研究員として招聘している。主任研究員による公募型プロジェクトに対して研究室や研究費、ポストクなどを保証することにより研究環境を支援し、学内の事業担当者との有機的連携を強めることにより、細胞の運命決定制御機構の解明に向けてより強力なチームを形成しようとしている点がユニークである。

<本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

細胞の運命決定制御機構の解明に向けて、地方大学で小規模ではあっても、学術的水準の高い研究拠点を形成することができれば、その社会的意義は大きい。この研究分野は、生命科学研究領域においても極めて重要であり、今後の発展が期待される。

<本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果>

本プログラムにより、細胞の運命決定制御機構に関わる研究者や情報が集積し、学術的水準の高い研究拠点の形成が可能になる。集積した成果は、大学における研究成果の主軸となると同時に、本プログラムにおいて育成した若手研究者が、本学のみならず世界において、新たな研究リーダーとなることが期待される。最近、本拠点の採択に伴って秋田県を中心としたバイオベンチャー創出を目的としたアカデミーファンド(約6億円)が設立され、本拠点を中心とした産官学連携が着実に進んでおり、その成果も期待される。

<背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等>

細胞の運命決定機構に関する研究分野は国際的に見ても競争の激しい分野である。本拠点では、シグナル変換メカニズムの解明を軸に、世界のなかでリーダーシップを発揮できるような研究者がチームを作っており、ヒト疾患の病態の解明などブレイクスルーとなる成果が期待される。また産官学連携による疾患の新たな治療法の開発などの応用面での発展も期待される。

機 関 名	秋田大学	拠点番号	A 0 4
拠点のプログラム名称	細胞の運命決定制御		

21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

地方にあり小規模ながら、細胞生物学における世界水準の研究拠点形成が進んでいると評価される。また、公募プロジェクト型主任研究員の採用とそれらに対する大学挙げての研究支援体制の整備など、世界をリードする人材育成の面でも大いに期待される拠点である。さらに、本拠点を核とした産学官連携による疾患治療法の開発など、応用面でも貢献が期待される。